

料金別納



ゆうメール

茨陵会

大阪府立茨木工業・工科高等学校同窓会新聞 第8号

2015年10月10日発行

大阪府立茨木工科高等学校

〒567-0031

茨木市春日5丁目6-41

TEL: 072-623-1331

FAX: 072-623-0652



文化祭のお知らせ

第53回文化祭を開催いたしますので、ご案内申しあげます。

入場には招待券が必要ですが、卒業生の皆様は当日受付にて、名簿に

卒業期とお名前をご記入いただきますと、ご入場いただけます。

日時：平成27年11月7日（土）10時より

茨木工科高校のホームページ <http://ibaraki-kouka.jp/>

茨陵会のホームページ <http://www.shiryokai.com/>

着任のごあいさつ



新会長 本津 茂樹(工業6期E科)

茨陵会会員の皆様には、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。私はこの度、8年間にわたり会長を務められました、小池隆彦氏(工業1期E科)に代わり、第四代会長にご選任いただきました本津茂樹でございます。小池前会長は、同窓会組織をまとめられるとともに、茨木工

業・工科高等学校創立50周年記念式典の実行委員会委員長も務められ、母校の発展に多大なる貢献されて参りました。私は、このような小池前会長の強力なリーダーシップと行動力には遠く及びませんが、精一杯頑張らせていただく所存です。御承知の通り、母校は、1963(昭和38)年に10番目の府立の工業高等学校として産声を上げ、その後2005(平成17)年に工科高校に再編整備され、これまで1万4000余名以上の卒業生を送り出し、広く社会に貢献してきたことは間違ひありません。しかし、職業教育を行う専門高校は、創設当時の高度経済成長期の少品種大量生産方式を支えてきた中堅技術者の育成から、付加価値の高い製品をつくることのできる企画力と開発力を兼ね備えたより専門性の高い技術者の育成に移行しており、時代の流れに適合したものづくりのできる人材の教育システムの導入が喫緊の課題となっております。

このような多難な時代を迎え、我が母校では校長の強いリーダーシップの元に、2014年度よりこれまでの3つの専科(機械系、電気系、環境化学システム系)に新しく工学系大学進学専科を設置して生徒の技術者としての進路を拡大するとともに、就職内定率の100%の実現、資格取得者の増加、クラブ活動の強化や地域連携や地域貢献の拡大にも取り組まれ、目覚ましい成果を上げておられます。このように頑張る母校のために、私に与えられた使命は、母校に役に立つ同窓会組織を構築することにあると考えております。そのため微力ではありますが、会員同士の親睦を深めながら、同窓会の運営に尽力していくことを考えております。会員の皆様方には何卒ご理解を賜り、ご支援とご協力を賜りますようここにお願いし、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ



校長 辻井 安喜

前回の同窓会新聞発行(平成25年7月)から、早、2年余りが経過しました。茨陵会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、皆様の母校、茨木工業・工

科高校ですが、創立から50年余りの間に、学校として大きな変革が3回ありました。1回目は、1994(平成6)年に従来の工業学科を環境化学科に科名変更・整備、2回目は2005(平成17)年に工科高校となり、機械系・電気系・環境化学システム系の3系7専科に再編し、1年生は総合募集としたことです。そして、直近の3回目が2014(平成26)年に従来の3系に工学系を加え、大学進学専科を設置したことです。

工学系大学進学専科では、大阪工業大学等の大学にご協力をいただき、土曜日を中心に「大学連携」という授業を実施するなど、大学等と連携した工業教育で、技術と理論を兼ね備えたエンジニアを育成することを目標としています。また、数学、理科(物理・

化学)、英語の時間を大幅に増加させるとともに、専門科目についても精選、再構築し、理工学系大学等へのスムーズな接続をめざしています。従来の工業科の高校としての強みである就職に加え、大学進学にも力を入れる工科高校の高大連携重点型校として新たなスタートを切りました。

これら母校の動向、在校生の様子については、昨年11月に全面リニューアルした学校ホームページにも掲載しておりますのでご覧いただければ、幸いです。

最後になりましたが、今後とも、母校を温かいまなざしで見守っていただくことをお願いするとともに、茨陵会会員の皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申しあげます。

中学3年生と保護者を対象とした「学校公開スケジュール」のお知らせ

オープンスクール(自由参加)
第一回学校説明会(自由参加)
10月24日(土)

実習体験(事前申し込み必要)
11月21日(土)

学校説明会(自由参加)
第二回 12月12日(土)
第三回 1月9日(土)

着任のごあいさつ



教頭 杉山 裕二

茨陵会の皆様におかれましては、平素より本校教育活動に何かとご協力・ご支援をいただきありがとうございます。

今春、西野田工科高校から本校に着任してまいりました、杉山裕二と申します。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

私は、西野田工業高校・電気科を卒業し、大学に進学、卒業後、工業高校の教員として、28年目を迎えました。

この間、工業高校への改編が行われ、平成十七年には、工業高校から工科高校へと改編し、科別の入試から総合募集に変わりました。また、科から系に移り、より専門性に特化するための専科が設けられました。

平成二十六年度には、さらなる改編が行われ、本校には工学系（進学クラス）が設置されました。現在は、一・二年生だけですが、来年完成年度を迎える、工学系の生徒全員を進学できるよう学校全体で取組んでいます。

総合募集の生徒については、二年生より各系・専科に別れ専門分野を学びます。その後、生徒への進路保障に向け、新たな就職先の確保に向けて、全教員が企業訪問等を行い、開拓に向け

て努力しています。この成果もあり、就職率100%を維持しています。

私も、工業高校卒業生として、府立実業高校の発展を常に願い、教員として頑張ってきました。微力ではありますが、ものづくりや資格取得、クラブ活動などを通して、すべての生徒が明るく自身を持てる学校生活をおくり、将来「茨工を卒業してよかった」と言ってもらえる学校づくりに取り組んでいきます。

本校の更なる発展のためには、保護者・同窓会・地域の方々のご支援がなくてはなりません。

茨陵会のみなさまには、今後いろいろな面で何かとお世話になることが多いと存じますが、どうかよろしくお願ひいたします。

昨年度の修学旅行

十数年前までの修学旅行といえば、貸切バスで信州方面へスキーに行くのが定番でした。長時間のバス旅で結構疲れのを覚えています。吹雪で高速道路が閉鎖されて、高速道路上で一夜を明かしたというようなこともあったそうです。最近の修学旅行は飛行機での移動が主流となり、北海道や沖縄をはじめ、海外へ行く学校も増えてきております。

工科高校9期生の修学旅行先として海外を検討したこともありました。英文による卒業証明書の発行が年間約30件。技術者や工場長などとして海外で活躍されている日本人の姿を生徒たちに見せたくて、現地の日本法人の工場見学を目玉企画とした「タイ王国」への修学旅行を検討しておりましたが、情勢の悪化であえなく断念となりました。

平成27年2月、工科高校9期生（現3年生）が、冬の北海道富良野へ修学旅行に行きましたので、簡単ではありますがレポートしたいと思います。

3泊4日の修学旅行中、2日目と3日目は各自が体験したい内容を選択できることが、今回の修学旅行の大きなポイントでした。「スキー体験コース」、「スノーボード体験コース」、「冬のアクティビティーコース（ワカサギ釣り＋スノーモービル運転＋クロスカントリースキー＋旭山動物園見学）」の3コースから、1コースを選ぶようになっていました。

また、最終日が「さっぽろ雪まつり」開催前日となるように、修学旅行の日程を設定していましたので、初日には全員で雪像づくり大会を実施、最終日には札幌自主研修として、雪まつり会場などの見学をしました。



スキー体験



スノーモービル運転体験



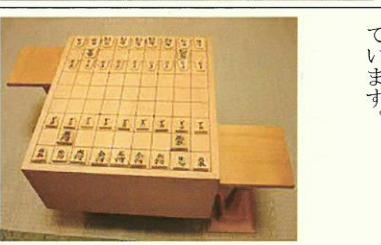
さっぽろ雪まつり

なお、今年度（現2年生）の修学旅行は、10月6日から3泊4日で沖縄です。

部活動(運動部)

	<p>「サッカー部」 主顧問 井上寛一 部員数 十五名</p> <p>ななかなか結果は出せませんが、日々練習に取り組んでいます。感謝の気持ちを忘れずに、何とか上位に食い込めるよう頑張っています。</p>		<p>「バレーボール部」 主顧問 西岡邦英 部員数 十八名</p> <p>昨年度、同好会としてスタートし、今年4月に部へ昇格しました。1年生が十一名入部して、活動がでてきました。今年度は合宿も行いました。</p>
	<p>「陸上競技部」 主顧問 村林隆志 部員数 十三名</p> <p>陸上競技部では、毎日目標に向かって練習に励んでいます。これからも一同頑張ります。</p>		<p>「山岳部」 主顧問 河本大毅 部員数 十一名</p> <p>昨年は塩見岳・北岳の縦走を行いました。今年は見合わせましたが来年予定している北アルプス縦走をめざして、練習に励んでいます。</p>
	<p>「柔道部」 主顧問 田中啓陳 部員数 十一名</p> <p>柔道部のある茨木市立の中学校は1校になりました。柔道人口が減少しています。その中で今年の1年生は頑張っています。</p>		<p>「硬式テニス部」 主顧問 井上直人 部員数 二十二名</p> <p>今年は念願の実業団体優勝をしました。個人戦も優勝して3冠を取る予定です。OBの皆様の支えがあって達成できました。ありがとうございます。</p>
	<p>「水泳部」 主顧問 村瀬径介 部員数 十二名</p> <p>5月から9月末までプールにて練習。平日は約4千mを目標にしています。9月5日の実業大会では200mフリーで予選を突破して決勝に進出</p>		<p>「硬式野球部」 主顧問 大橋有 部員数 二十二名</p> <p>部員数は少ないですが、「つながり」を合言葉に毎日元気に活動しています。ご声援をよろしくお願いします。</p>
	<p>「卓球部」 主顧問 田村亮太 部員数 十名</p> <p>毎日、高校選手権や実業総体に向けて練習を行っています。実業総体では、団体戦3位という成績を残しました。</p>		<p>「剣道部」 主顧問 武智弘樹 部員数 四名</p> <p>1年生4名で活動中です。実業大会の優勝をめざして日々、練習をしています。</p>
	<p>「バドミントン部」 主顧問 柴田優介 部員数 十一名</p> <p>今年実業高校大会で体戦優勝をしました。来年も連覇できるように頑張ります。</p>		<p>「ハンドボール部」 主顧問 長谷川義昭 部員数 十五名</p> <p>同好会から部に昇格ができたので、強いハンドボール部をめざしたい。本年の実業総体では3位だったので、さらに上位をめざしたい。</p>
	<p>「バスケットボール部」 主顧問 栗田泰典 部員数 二十五名</p> <p>平成24年度の大阪総体では4回戦まで進出しました。現在も各大会や練習試合を目標に日々練習に励んでいます。</p>		<p>「自転車競技部」 主顧問 森谷哲也 部員数 十七名</p> <p>自転車競技部は、毎年、全国大会で活躍しています。インターハイについては、特集記事をご覧ください。</p>

部活動(文化部)

 <p>「美術部」 主顧問 宮崎さや 部員数 八名</p> <p>平成27年度高校展、彫刻・立体の部、優秀賞受賞。高校展やプロック展への出展をめざして頑張っています。</p>	 <p>「軽音楽部」 主顧問 川地良明 部員数 十六名</p> <p>軽音楽部連盟大阪に加盟し、主催ライブや他校との交流ライブに積極的に参加しています。</p>
 <p>「写真部」 主顧問 高林正幸 部員数 四名</p> <p>今年の部員は、フィルム写真的経験がありません。今年は、白黒写真を撮影し、現像したものをお印画紙に焼き付ける体験をしました。文化祭に向けて作品を撮りたいです。</p>	 <p>毎週金曜日にみんなでいろいろな料理を作つて楽しんでいます。文化祭では模擬店を出店し、日頃の練習成果を発表しています。</p>
 <p>「漫画研究部」 主顧問 中谷幸代 部員数 二名</p> <p>各自が自主的に活動しています。共同作業としては、文化祭の展示があります。</p>	 <p>毎週火曜日、木曜日の放課後に展開教室Cで活動しています。季休業中も活動し練習試合等も実施します。春夏の大会にも参加しています。</p>
 <p>「環境俱楽部」 主顧問 中川京美 部員数 六名</p> <p>本年度は空気砲の研究を中心に行っています。産業教育フェアや文化祭で、研究成果を発表していきます。</p>	 <p>スペースサイエンス技術部では、缶サット甲子園や、ハイブリッド・ロケットの研究開発、全国工業校長協会の人工衛星の部品製作などをして活躍しています。</p>
 <p>「鉄道研究部」 主顧問 井上弘司 部員数 十名</p> <p>鉄道研究部は、平成26年2月に顧問と部員たちの熱い想いが結集して設立されたクラブです。活動は主にジオラマ制作です。鉄道甲子園に出演。</p>	 <p>モノ作りが大好きな生徒の集まりです。ロボット相撲大会やエコデンレースなどの大会に参加しています。</p>
 <p>「コンピュータ部」 主顧問 中村隆夫 部員数 二十一名</p> <p>自主ゲームの作成や画面編集、文化祭でレーザー加工機による商品を販売しています。</p>	 <p>入学式、卒業式等での放送設備の準備や、体育祭での司会などをしています。</p>
 <p>「演劇部」 主顧問 河野吉則 部員数 二名</p> <p>演劇は公演場所も、道具なども、照明や音響の装置もたくさん必要な活動です。現在、部員も少ないので、大阪府C地区の行事を中心に活動しています。</p>	

Pick Up 部活動

自転車競技部

顧問 堀田 隆志（工業17期M科）

「インターハイを終えて」

本年度の8月に平成27年度全国高等総合体育大会（通称インターハイ）が近畿ブロックで開催されました。

平成24年の近畿高体連会議で大阪府においては、体操競技・バレーボール・ハンドボール・テニス・なぎなたそして自転車競技が開催されることとなり、私は自転車競技大会の準備のために平成25年度より大阪府教育委員会内の高校総体実行委員会事務局に出張することになりました。

全国高校総体（インターハイ）とはその名の通り、全国の予選を勝ち抜いた高校生アスリート達が日本一をめざして競う大会で、高校体育連盟では30競技を開催しています。（高校野球は別物です）

自転車競技は、パンクとよばれる

すり鉢状の自転車競技場（競輪場）で行われるトラックレースと一般公道で行われるロードレース（1日100kmほど走って優劣を競う）が開催され、総勢500名のアスリートが集結します。

実は、9年前の平成16年にも大阪府で自転車競技大会を開催した実績がありましたので、競技運営面は、さほど心配していませんでしたが、気がかりだったのは、なんといっても開催に掛かる莫大な費用を財政難の大坂府が出してくれるかどうか。また、大阪の交通事情を考えると一般公道を閉鎖してロードレースを開催することは至極困難との判断から、ロードレースは大阪府外の鈴鹿サーキット（三重県）で開催したいと全国高体連に申請していましたが無事に申請が受理されるかどうかという二点でした。

平成25年度中に仮要項を作成し、トラック競技は岸和田競輪場で、ロードレースは鈴鹿サーキットで開催することが決定した時には少し「ほっ」とした気持ちになりました。

平成26年度は、週3日事務局で勤務することになり、学校の授業の他に

インターハイの予算請求に各種書類作成や関係企業との折衝に追われ大変忙しい1年となりました。

そして今年の4月からは半年間の期限付きで事務局に出向することになりました。（私の場合は事情があつて週3日勤務としました）とにかく、日々様々な課題が発生しその解決に奔走していました。競技役員に支給するポロシャツの手配からお弁当の手配にマニュアルの作成、補助員として参加する生徒の手配に参加選手への案内作成にプログラム作成と休む暇なく次々と仕事がありました。

忙しさのあまり本校の自転車競技部員の面倒を十分に見られず「本校からインターハイに誰も出られないのでは」と心配しましたが、選手の頑張りで2名の出場が決まり安心すると共に少々の疲れも忘れることができました。

平成27年は、慌ただしく月日が過ぎ去り気が付けば大会が終わっていたというのが正直な感想ですが、インターハイの運営・企画に携わって貴重な体験ができたと思っています。



新聞発行に際して、ご寄付のお願い

平素は、本会の運営にご支援、ご鞭撻を賜り誠にありがとうございます。同窓会新聞も今回で第8号となりました。皆様方からは、毎号多大なるご寄付をいただき、順調に新聞を発行できていますことを、常任理事一同、感謝いたしております。

誠に申し訳ありませんが、今回も1口1000円として、何口でも結構ですので、同封の振込用紙にて、新聞発行費用にご支援いただければ幸いです。（振込手数料はかかりません）

毎回卒業生の皆様に大変な負担を強いることになりますが、事情と趣旨をご理解いただき、何卒ご協力の程、宜しくお願ひいたします。

卒業生だより



教諭 伊東 博一（工業1期C科）

「あっという間の50年」

半世紀も前のことになります。本校の工業化学科で高校生活を過ごしました。当時の校舎は普通科棟だけで、その多くは建設途中でした。授業は、施設や設備が少ない中で行われました。けれど、それもいい思い出でした。

当時は、若い先生も多くて教育に熱心でした。放課後、数名の生徒が化学の実習室に集まって勉強会がありました。そこで、塩化銀は水に溶けない

が、塩化鉛は温水に溶ける。同じ塩化物なのに何故か？先生に数十枚の説明コピーを頂き、勉強したことを今も鮮明に覚えています。その時、疑問を理論的に解き明かしていくことの大切さを学びました。

卒業後、大学の4回生の6月頃だった。通学の電車内で偶然にも勉強会をして下さった先生にお会いしました。何気ない会話の中で卒業後の就職の話になり、「愛媛県の教員試験を受けます」という私に、先生は「大阪の試験は受けないのか？」と言われました。私は少し戸惑いながらも何も答えなかつたと思います。それは大阪を離れてみたい気持ちがあったからでした。

結局、教員採用試験は愛媛県をやめて大阪府を受験しました。その年の秋頃でした。先生から「大阪府の試験に合格したら学校へ来なさい」といわれていたので、工業化学科の職員室を訪ねた。当時は合格したら必ず採用があるとは限らない時代でした。就職の相談に乗って頂いたおかげで、翌年4月から大阪府の教員に採用されることになった。卒業後、随分と年数が経つ

ているのに、母校はありがたいと思いました。

その後、工業高校で38年間、工業化学の教育に携わり、三つの工業高校に勤務し、数年前に定年退職しました。しかしその間、母校の教壇に立つことはありませんでした。

近年、工業高校も学校改革や学科改変が行われ、校名は工科高校に、工業化学科は環境化学システム系に変わりました。しかし、設立当初からの工業教育の基本や内容は、大きく変わってはいないと思います。

現在、母校の非常勤講師として勤めていますが、JR茨木駅から学校までの道のりは、学生時代の面影を残しています。また、職員室から、校舎やグランドを眺めているとあの頃の記憶が少しづつよみがえり懐かしくなります。“光陰矢の如し”あっという間に50数年が過ぎましたが、あと少し母校のために頑張ってみようと思っています。

決算報告

平成26年度茨陵会決算書

収入の部

項目	予算	決算	増減	備考
前年度繰越金	2,744,987	2,744,987	0	
会費	1,332,500	1,358,500	▲ 26,000	6500×209名
雑収入	513	465	48	利子・卒業生
新聞賛助金	207,100	0	0	
合計	4,285,100	4,103,952	▲ 25,952	

支出の部

項目	予算	決算	増減	備考
総会費	10,000	0	10,000	まんじゅう・お茶
通信費	50,000	36,728	13,272	切手・文化祭案内
印刷費	50,000	0	50,000	文化祭案内印刷
慶弔費	100,000	78,548	21,452	餞別金・慶弔費・クラブ
会合費	70,000	30,142	39,858	理事会等
事務費	180,000	89,856	90,144	アルバム・更新料等
新入会員歓迎費	250,000	211,000	39,000	認め印鑑
積立金	0	0	0	
予備費	3,575,100	0	3,575,100	
新聞発行費	0	0	0	
合計	4,285,100	446,274	3,838,826	

次年度繰越金		3,657,678	
--------	--	-----------	--

平成27年度 茨陵会予算書

収入の部

項目	本年度予算	前年度予算	増減	付記
前年度繰越金	3,657,678	2,744,987	912,691	
会費	1,332,500	1,332,500	0	6500×205名
雑収入	322	513	▲ 191	利子他
新聞賛助金	0	207,100	▲ 207,100	
合計	4,990,500	4,285,100	705,400	

支出の部

項目	本年度予算	前年度予算	増減	付記
総会費	10,000	10,000	0	総会時お茶菓子
通信費	50,000	50,000	0	ハガキ代・郵送費
印刷費	50,000	50,000	0	案内ハガキ印刷費
慶弔費	100,000	100,000	0	餞別金・慶弔費
会合費	70,000	70,000	0	理事会他
事務費	180,000	180,000	0	トナーデ
新入会員歓迎費	250,000	250,000	0	認め印鑑
積立金	0	0	0	
新聞発行費	1,200,000	0	1,200,000	
予備費	3,080,500	3,575,100	▲ 494,600	
合計	4,990,500	4,285,100	705,400	

上記の通り決算報告をします。

大阪府立茨木工科高等学校茨陵会会計 上迫 真理子

監査の結果適正に処理されていたことを認めます。

茨陵会会計監査 時 久 加 代

離任された先生・職員

(平成25年度)

浅野由紀子（数学・春日丘高校へ転勤）
齋藤寿和（体育・門真西高校へ転勤）
鶴田峰久（機械・布施工科高校へ転勤）
藤井貴英（電気・淀川工科高校へ転勤）
三谷兼一郎（電気・西野田工科高校へ転勤）
福井正人（英語・ご退職）
山口常夫（機械・ご退職）
久保田秀樹（数学・西野田工科高校定時制へ転勤）
氏原慎弥（理科・大塙高校へ転勤）
山本寿彦（機械・今宮工科高校へ転勤）
西村勝（環境化学・堺工科高校へ転勤）
横山法夫（理科・ご退職）
柳田明則（環境化学・ご退職）
辻真理子（技術職員・吹田高校へ転勤）

(平成26年度)

山崎一郎（教頭・三島高校へ転勤）
後藤理恵子（国語・三島高校へ転勤）
古川良祐（体育・西寝屋川高校へ転勤）
井手之上達行（機械・今宮工科高校へ転勤）
梨木良平（環境化学・堺工科高校へ転勤）
森田利男（数学・山田高校へ転勤）
宮下誠（理科・愛知県立日進高校へ転勤）
荻田裕子（英語・ご退職）
古田昭文（国語・東淀川高校へ転勤）
垣見光章（数学・門真西高校へ転勤）
柑本雅也（理科・芦間高校へ転勤）
高島達樹（機械・布施工科高校へ転勤）
丹下俊次郎（社会・ご退職）
永井正行（英語・ご退職）
北野一照（機械・ご退職）
日加田美幸（環境化学・ご退職）
葛野健太郎（事務部長・池田北高校へ転勤）
長濱保男（事務主査・和泉総合高校Ⅲ部へ転勤）

卒業生数

大阪府立茨木工業高校（1～42期）

卒業生総数

機械工学科	6,393名
電子工業科	4,175名
工業化学科	2,004名
環境化学科	507名
計	13,079名

大阪府立茨木工科高校（1～8期）

卒業生総数

機械系	903名
電気系	492名
環境化学システム系	402名
計	1,797名

編集後記

この度、初めて茨陵会新聞の編集長を担当することになりました。私は3年生（工科9期生）の担任をしており、修学旅行の記事も書かせて頂きました。現在3年生は就職試験の真最中です。景気の回復にともない、担任をしております「環境化学システム系」の生徒たちが1度目の就職試験で内定を頂いた生徒数（一次内定率）は、9割に迫る勢いです（3年生全体につきましても、一次内定率が7割を超える好調な状況です）。こうした就職の良さは卒業生の皆様はよくご存じのことだと思います。もしご子息やご近所に高校受験を控えているお子様がおられましたら、ぜひ本校のことを紹介して頂けると幸いです。

今年も残りわずかではございますが、皆様方のお力添えをいただきながら、茨木工科高等学校ならびに茨陵会の発展に、微力ながら尽力していく所存でございますので、どうぞ宜しくお願い致します。

教諭 西岡 邦英（工業23期C科）

